



菊池学園事業との連携・推進 第1回公開授業研修！

本年度より、各校、年1回菊池省三先生を講師として公開授業を行います。まず、4月28日(水)の14時より、伊野小学校にて、公開授業研、研究協議、学校版菊池寺子屋、そして第1回菊池学園担当者部会を行いました。

【公開授業研】

○授業者：6年2組担任 河本勝一郎先生
○単元名：社会科「国づくりへの歩み」
○内 容：＜縄文時代と弥生時代のどちらが幸せか＞二択で問うディベート形式授業



【研究協議】 協議の柱として

①学び合うための動きのある対話・話し合い
②挙手⇒指名⇒発表のみからの脱却
等を中心に授業の振り返りを行いました。菊池先生からは、意欲に焦点を当てた授業観、対話を生み出す授業の仕掛け、ファシリテーターとしての教師の在り方、等々について教えていただきました。



【学校版菊池寺子屋】

「菊池実践いろはの“い”」をテーマに、『ほめ言葉のシャワー時の教師の在り方』『成長ノートのテーマの与え方』『価値語指導のタイミング』等についてお習いできました。

また、子どもが生き生きと輝く対話活動を成立させるには、安心して発言できる学級風土や、プラスの感情サイクルをつくることの必要性、「Win-Win-Winな関係」構築の重要性等々についてのお話もお聞きすることができました。



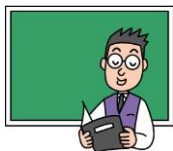
◎菊池寺子屋で学んだ 身に付けたいこと

1. 身体性：教師が立ち位置・どう動くかを考え、パフォーマンス力を向上させる。
2. 言葉の質：教師自らの感動から自分の言葉で、ポジティブにとらえる。
3. 話し方：会話体・対話体で、自分の言葉のリズムで伝える。
4. 関係性：上から目線ではなく、子どもと一緒に学びをつくっていこうと務め、共に成長していく。

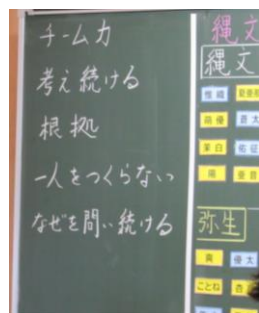
この他に、普段学級で困っていること等、先生方の日頃の悩みについても丁寧な回答をいただきました。



◆参観者感想



子ども主体で対話的な授業に対して、教師がどのように関わっていくのか、ということの難しさを参観しながら考えた。そして、このような授業が、今後の対話的な学びにつながり、子どもと子どもをつなげる教師の在り方について考えることができた。また、対話・話し合いの授業で、質問力をつけることが大切であると考えることができた。



子どもたちが役割をもっていて、全員が参加し、そして自分の考えをもち「考え続ける」姿がとても素敵でした。紙にも河本先生の赤ペンが入っていたり、社会の言葉が使われていて、教科としても意図をもっていて大変勉強になった。同じ言葉でも、身体や語尾を変えるだけで印象が大きく変わることが分かった。



相手方（反対意見を持つ者）とのやりとりは、成長につながると思った。自分の立場を決めて参加していた。自己主張をよくしていた。先生は進行役となり、子どもが授業をつくっているように感じた。発表時の困っているときに、メモを差し出したりして、チームでの取組が見られた。

【第1回菊池学園担当者部会】

本年度より、菊池学園担当者部会を研究所組織の中の専門部会として位置付けています。担当の皆さんには、学校の代表として菊池学園の推進をお願いします。

<担当者>

河本勝一郎(部長 伊野小)	垣内竜司(副部長 長沢小)
小田原典寿(枝川小)	池尻早紀(伊野南小)
田所美佳(川内小)	吉村美鈴(神谷小)
大倉智也(吾北小)	國廣ゆか(伊野南中)
下山真矢(神谷中)	田村佐緒里(吾北中)
森田美香(本川中)	教育委員会・教育研究所

<目的>

- ・ 菊池学園事業についての理解を深め、担当としての指導力の向上をめざす。
- ・ 担当者会で研修したことを各職場で共有し、校内研修等の実践にいかす。

<菊池学園について>

○目指す教育の姿

- ・ 定期的にポイント1・2と学級の関係性づくり（成長ノート・価値語・ほめ言葉のシャワー）について、校内での情報共有を！！

<年間スケジュール>

- 第1回 4月28日(水) 16:05～
・ 研究計画確認・予算要求・集録「いの」
- 第2回 8月20日(金) 13:30～
・ 各中学校校区15分の実践発表
(講評：菊池省三先生)
- 第3回 2月15日(火) 15:30～
・ 情報共有と集録「いの」原稿確認

各小中学校教職員の皆さんのご協力をよろしくお願いします。

本年度、第1回菊池学園、連携・推進事業を、無事終えることができました。

若年層の先生方が増えてきている中で、子どもたちのよりよい成長のために、チーム学校、チーム教育委員会で取り組み、それぞれの責務を十分に果たしていかなければなりません。

今後、菊池学園事業での研修が更に深まり、各園・学校で共有し実践されることを願っています。そのためにも、教育研究所が、できる限りの支援に努めていきたいと思っています。